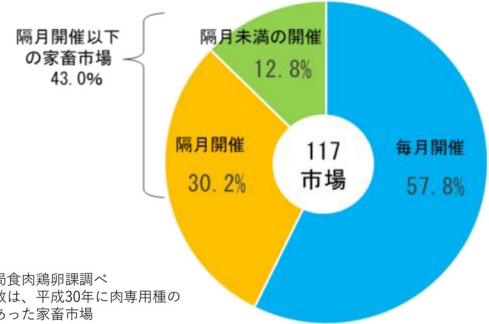


○ 状況変化と現状

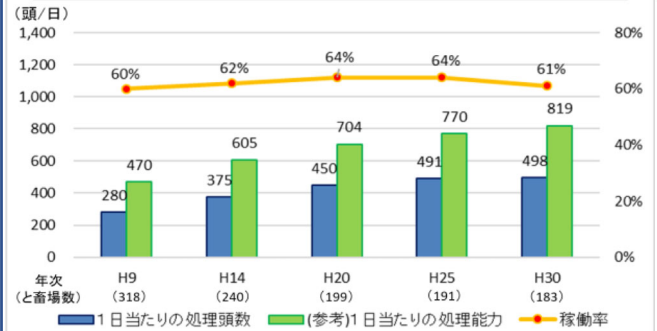
- 家畜市場は、肉用牛の公正な取引と適正な価格形成の役割を有しています。
- 近年、出荷頭数の減少に伴い開催日数が減少しており、出荷適期を逃す、購買者が集まりづらくなっている等の課題に直面している家畜市場も見られます。
 今後は、受精卵由来の肉用子牛の増頭により取引頭数の増加が見込まれます。
- 食肉処理施設は、生産者と消費者の結節点として高品質な食肉を安定的に供給していく役割を有しています。
- 近年、稼働率の低迷、施設の老朽化、労働力不足という課題に直面しています。
 また、消費者からは生産者の顔が見える商品づくりが求められています。

家畜市場の開催頻度の状況



出典：生産局食肉鶏卵課調べ
 ※家畜市場数は、平成30年に肉専用種の家畜市場開催があった家畜市場

食肉処理施設の稼働率及び1日当たりの処理頭数等の推移



出典：生産局食肉鶏卵課調べ

○ ねらいと推進方向

家畜市場では、地域の実情を踏まえ、**再編・整備を推進し**、受精卵移植由来の肉用子牛を含めた**取引頭数の増加**、**年間を通じた市場開催**、**施設の機能向上・決済機能の迅速化等**を図ります。



食肉処理施設では、生産者・食肉処理施設・食肉流通事業者の**3者によるコンソーシアム**の下、**再編合理化を促進し**、施設の稼働率の向上、高度な衛生水準の確保、処理・加工の自動化、と畜から精肉加工までの一貫製造体制の構築を図り、**国産食肉の生産・流通体制を強化**を図ります。



諸外国並みの食肉処理施設の整備

○ 食肉処理施設の稼働率の目標

現状 (H30年度)	目標 (R12年度)
61%	70～90%以上